

令和5年11月15日開催

通年・広域観光推進特別委員会資料

上越市通年観光計画（中間とりまとめ）	・・・・・・・・	1～27
上越市通年観光計画（中間とりまとめ）参考資料	・・・・・・・・	1～65

上越市通年観光計画(中間とりまとめ)

上越市 文化観光部

令和5年11月15日

— 目 次 —

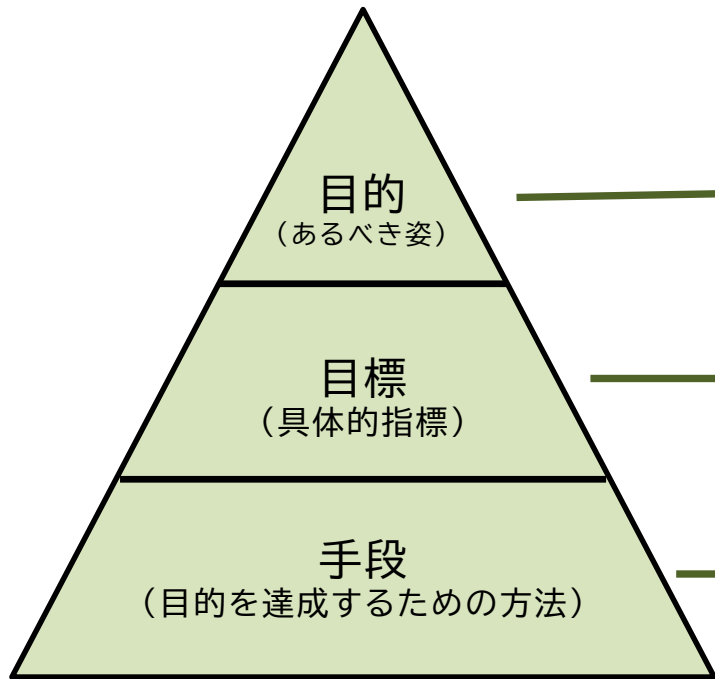
- 1 全体計画
- 2 春日山地域
- 3 直江津地域
- 4 高田地域

1 全体計画

目指す姿



歴史・文化の伝承



“来訪者が市民の日常に溶け込み楽しむ観光地域”



繁忙期(4月、7月、8月)以外の入込客数の底上げ



観光地域づくり

(取組を行う上で意識すること)



滞在時間の増加 稼ぐ仕組みの構築

【上越市を取り巻く厳しい地域環境(地域課題)】

人口減少
高齢化

若者の流出

地域・市街地
の活力の低下

経済規模
の縮小

都市機能の低下
(交通・買物・病院等)

地域産業
の衰退

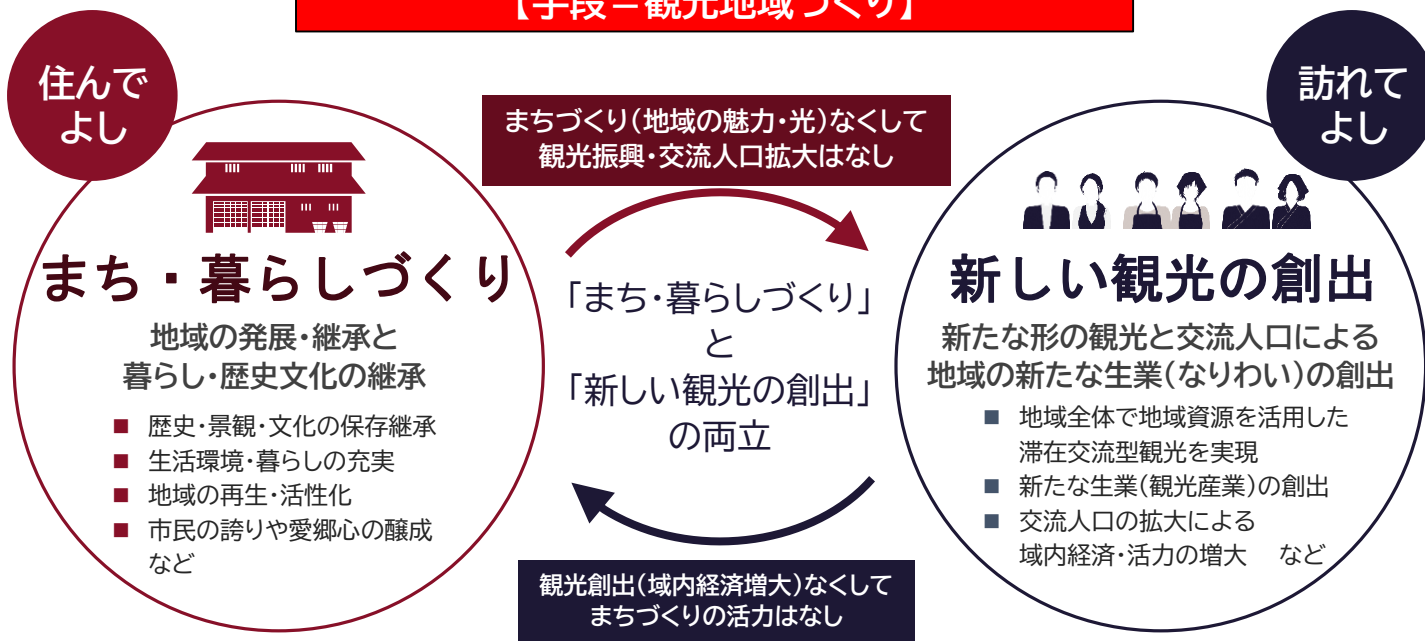
空き家の増加
街並みの喪失

歴史文化の
継承の危機

地域文化の理解や
誇りの継承危機

地域課題解決のための地域づくりの取組

【手段＝観光地域づくり】



●観光に取り組む意義

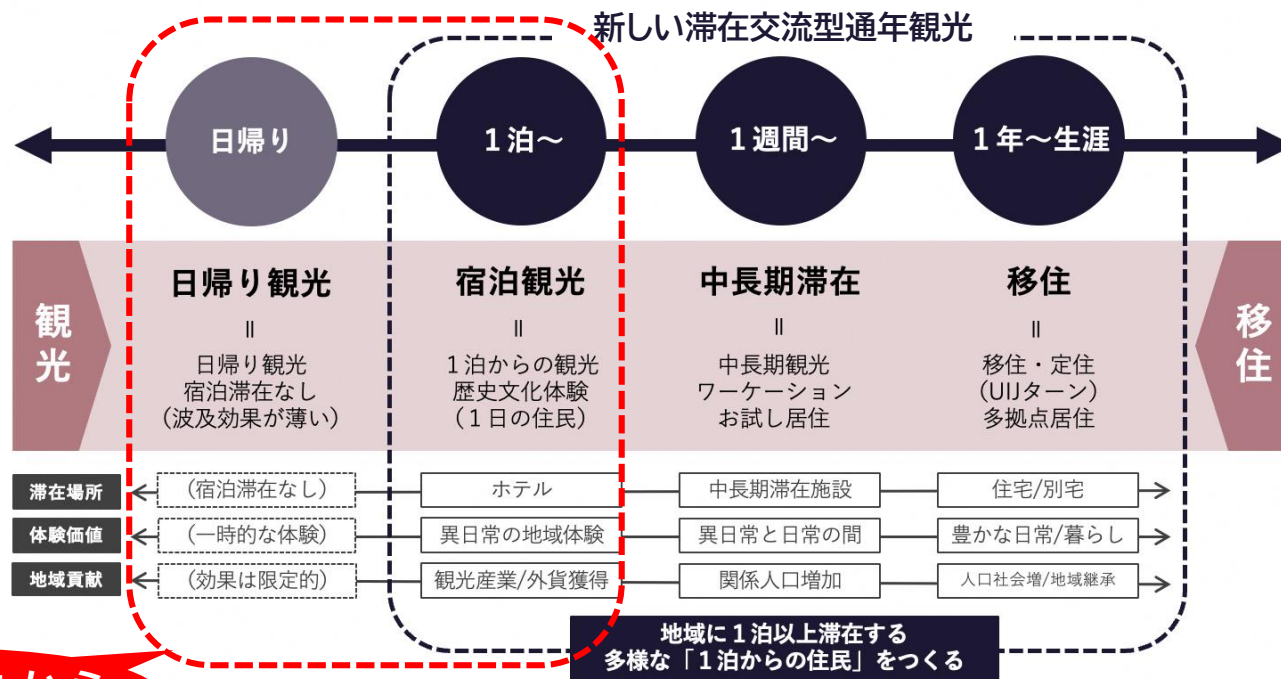
地域資源をいかした、地域全体で取り組む滞在交流型通年観光を生業として創出することで、地域課題の解決を目指す。

●実現に向けて必要な取組

- ①他の地域と差別化でき、地域外からの魅力となる地域らしさ(誇るべきDNA)の明確化と戦略づくり
- ②生業となる観光コンテンツ・商品の創出と地域づくり・マネジメント体制の確立

観光客(交流人口)の考え方

地域の暮らし・歴史文化資源を活用した新しい観光を起点に
「一泊から一生涯までの住民を」観光から移住まで多様な滞在と関係人口をつくり
地域に生業(産業)を生み出し持続可能な地域を実現する



まずはここから

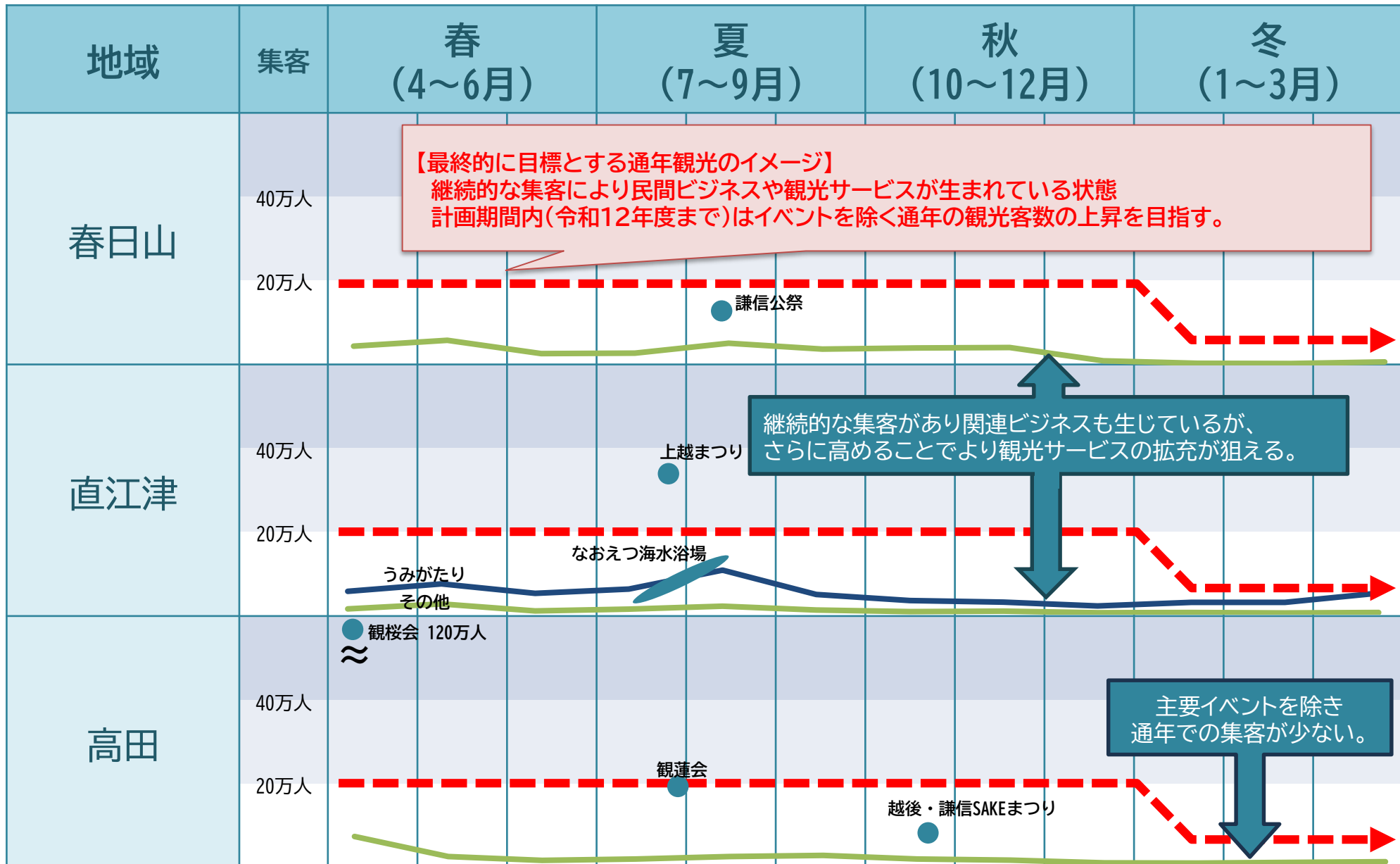
交流人口 → 1日からの住民をまちに迎える

例えば:1日の住民(1泊の観光客)が365人空き家に滞在したら空き家に毎日明かりが灯る。

1日からの住民がいることで、スーパーや魅力的な店舗が復活する。

1日からの住民がいることで、商売が成り立つ、仕事が増える、交通が維持できる。など…

ビジネスが生まれやすいコンスタントな集客を目指す



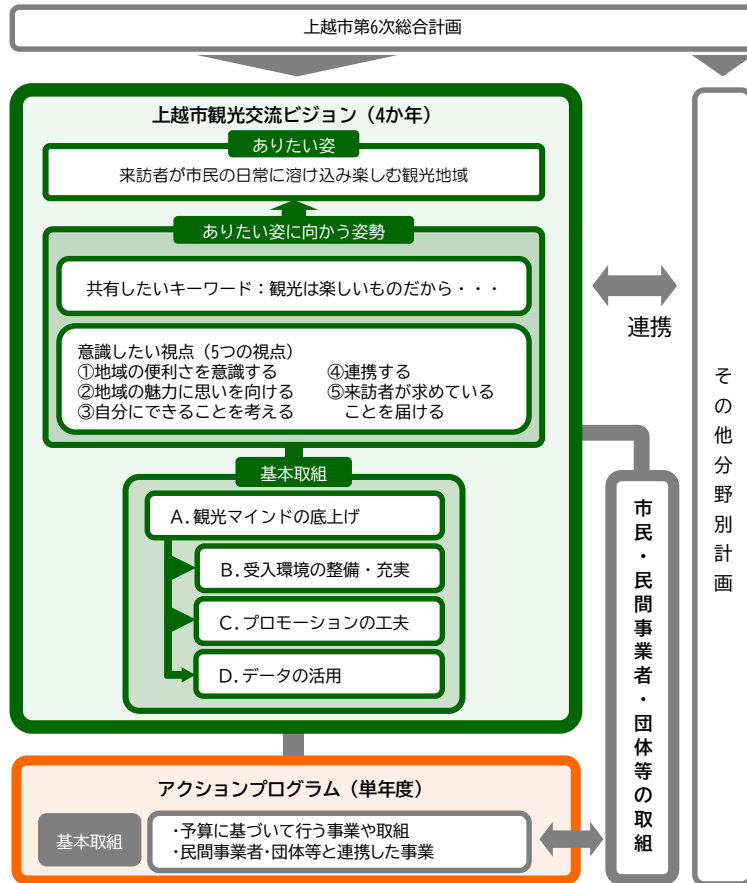
出所:新潟県観光入込客統計調査の共通基準を満たす市内の観光地点及びイベントを集計(令和元年)
 ※上越まつりは、直江津地域に一括計上

計画の位置づけ

【令和2年度～令和5年度】

「上越市観光交流ビジョン」※策定当時

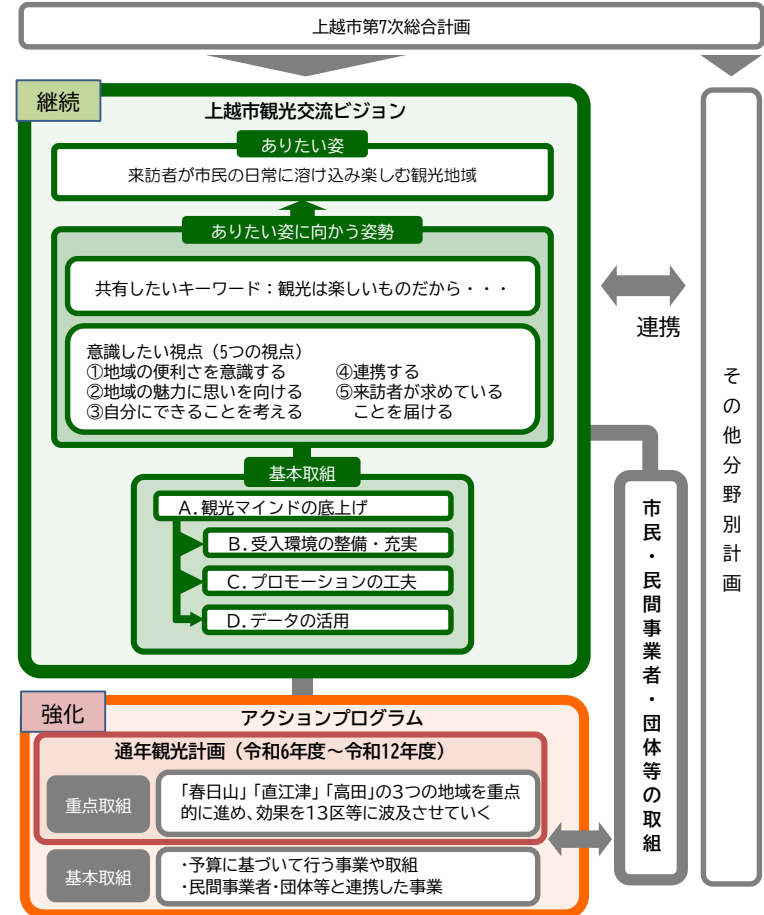
- 「上越市観光交流ビジョン」は、市民が共有したい「ビジョン」に焦点をあてるものです。ここでいう「ビジョン」とは、「ありたい姿を描いたもの。理想像。未来像。」との意味で用いています。
- 本ビジョンの期間は4か年とし、次期総合計画の策定(予定)や、今後の観光の動向などを踏まえ、見直しについて検討します。
- 本ビジョンに基づき行政が行う事業や民間事業者・団体等が行政と連携して取り組む事業を取りまとめた「アクションプログラム」をこれとは別に毎年度作成します。
- ビジョンの体系は、下図のとおりです。



【令和6年度～令和12年度】

「上越市観光交流ビジョン」

- 「ありたい姿を描いたもの。理想像。未来像。」の意味である「ビジョン」は、進むべき道標として令和6年度以降も見直すことなく目指していきます。
- また、上越市第7次総合計画の基本目標の1つである「魅力と活力があふれるまち」は、本ビジョンで共有したキーワードや意識したい視点、基本取組を継続的に取り組んだ結果として現れる“まちの様子”です。
- 令和6年度からは、単年度としていた「アクションプログラム」に通年観光の実現に向けた重点取組を加えてさらに強化します。
- 見直し後のビジョンの体系は、下記のとおりです。



次の4つを組み合わせることで効果的に推進するとともに、その恩恵が地域全体に及ぶよう取り組む。



① 上越市の 歴史文化の 「価値化」

市民や市外の人からその価値を認め、足を運んでいただき、経済効果を得ることで、将来にわたり「歴史文化」を守り育てていく。こうした持続可能な観光(サステナブル・ツーリズム)を目指す。



② 3地域の 集中的な観光 地域づくり

「歴史文化」をいかした観光地域づくりと観光消費額アップに3地域(春日山・直江津・高田)で集中的に取り組む。魅力を底上げし、「滞在時間、立寄り場所、宿泊」を強化する。

ニーズに対するコンテンツ不足を「上越市+広域」でカバーし、通年観光化を目指す。文化観光を産業に育て、「歴史文化」を守り育てる原資としつつ、市民が「歴史文化」の価値を認識し、受け継がれる状態に近づく。

④ 上越市 + 広域で 集客・発信



③ 3地域から 13区等へ シャワー効果

3地域への集客を他地域へ誘導する。「3+他地域」で商品化、発信、販売することにより、13区等へのシャワー効果を生み出す。



計画の概要 —上越市の観光地域づくり—

- 観光は今後の成長が期待される、**地域活性化に資する取組である。**
- このため、「**稼ぐ観光**」へ、**持続可能な観光地域づくりの取組を強化**する。
- 上越市第7次総合計画期間を対象期間とし、**春日山・直江津・高田の3地域を重点地域**に位置付けるとともに、注目が集まる**主要イベントや周年記念などのタイミングを捉え、観光地域づくりの取組を集中的に展開**する。

計画期間
令和6(2024)年度～
令和12(2030)年度

基本的な方針

持続可能な観光地域づくりに取り組む

【観光立国推進基本計画(第4次) 令和5年度～令和7年度】

- 観光振興が**地域社会・経済に好循環**を生む仕組みを推進する。
- 観光産業の**収益力・生産性を向上させ、従事者の待遇改善**にもつなげる。
(稼げる産業・稼げる地域)
- 地域住民の理解**も得ながら、**地域の自然、文化の保全と観光を両立**させる。

【上越市観光交流ビジョン 令和2年度～令和5年度】

- ありがたい姿**
来訪者が市民の日常に溶け込み、楽しむ観光地域
- ありがたい姿に向かう姿勢**
上越市観光交流のキーワード「観光は楽しいものだから・・・」

■上越市の主な観光資源

自然 イベント スポーツ・レジャー
歴史文化 産業 食 体験・学習

■取組を行う重点地域

春日山 直江津
高田

13区等

目標

令和12年度目標

通年観光計画	3地域の月別観光客数(イベントを除く)	(令和元年度比)1.3倍	
	一人当たり観光消費額	県外日帰り (県水準) 11,000円 県外宿泊 (県水準) 35,000円	
第7次総合計画	4-2-1観光振興の強化	市内への観光客入込数	6,040千人
		観光消費額	25,400百万円
		上越観光Naviの閲覧件数	1,890,000PV

主な施策

- 春日山: 植林された杉の伐採、馬場広場の修景整備、観光拠点施設の整備、春日謙信交流館への観光案内機能整備、二次交通の整備、謙信公ブランディング戦略の策定
- 直江津: 直江津D51レールパークを鉄道遺産として整備・保全・継承、五智公園D51-75の移設・動態保存、屋台会館・海浜公園の利活用社会実験、船見公園の利活用社会実験
- 高田: 持続可能なまちづくり組織の検討、観光案内所等の在り方検討、浄興寺大門通りの景観整備、枳形門の復元的整備可能性調査研究

当面目標とする通年観光のイメージ

継続的な集客により民間ビジネスや観光サービスが生まれ始める状態

全体計画(重点3地域)

【観光地域づくりコンセプト】

越後の都 誇れる上越の3つの暮らしと心意気

春日山・直江津・高田の多様な3つの暮らしと心意気を誇りを持って示す滞在交流型観光地域づくり

重点地域①:春日山

義の心と強さに出会う
「謙信公の春日山城」

春日山城に抱(いだ)かれる豊かな暮らし (義の精神・勝負強さ) 謙信公に出会う (心の触れる) 自然と景観と心に触れる

重点地域②:直江津

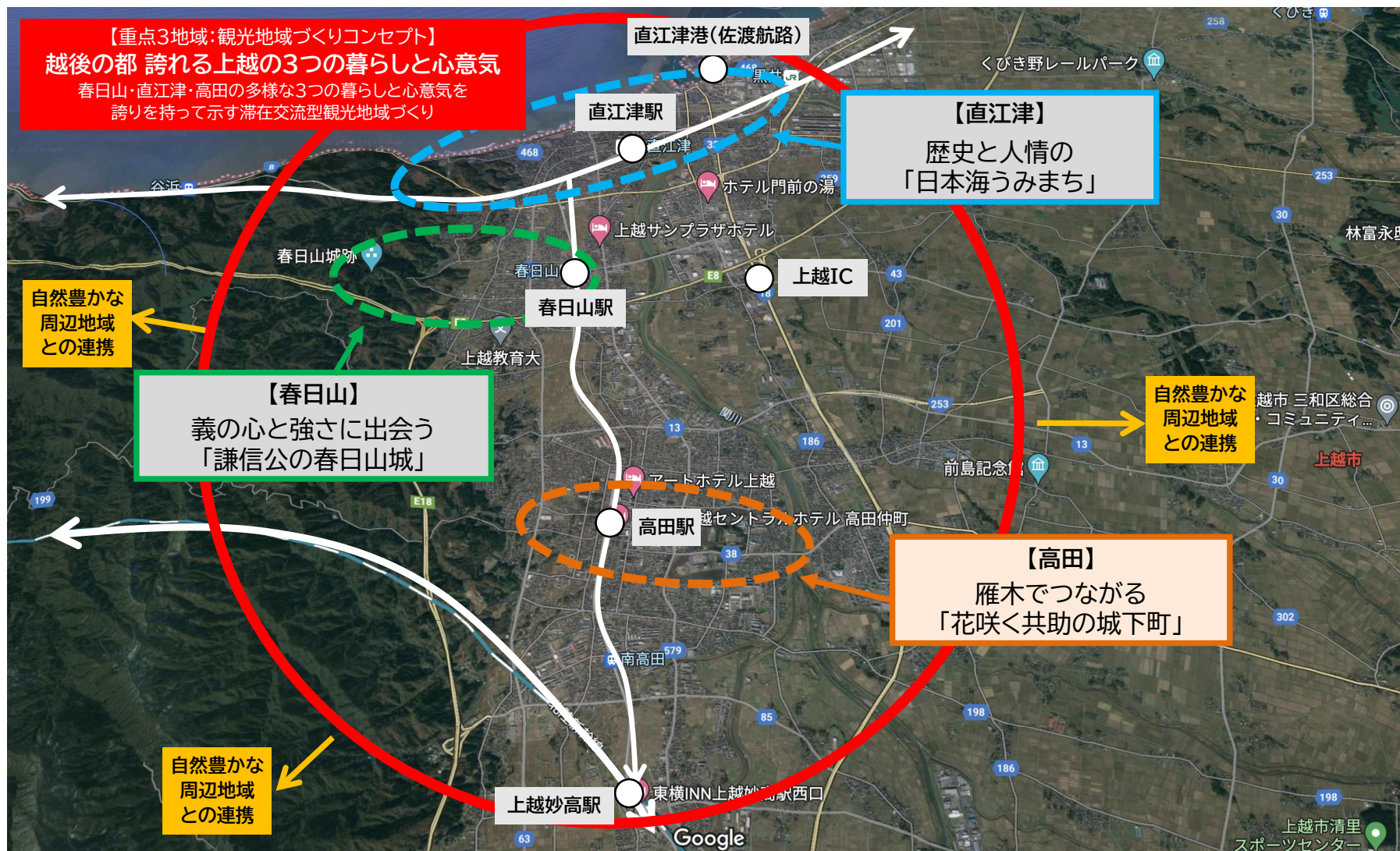
歴史と人情の
「日本海うみまち」

日本海うみまちの新しい暮らし (人情と祭り) 商いの精神 (府中と港町の歴史と文化)

重点地域③:高田

雁木でつながる
「花咲く共助の城下町」

城下町の歴史ある豊かな暮らし (雁木でつながる) 共助の精神 (花咲く) 景観と生業



2 春日山地域

<春日山地域：観光地域づくりコンセプト>

義の心と強さに出会う「謙信公の春日山城」

- 春日山の豊かな自然や景観に抱(いだ)かれて義の心や強さに触れる「謙信公の春日山城」-

目指すまちと暮らしの姿
(まち・暮らしづくり:住んでよし)

春日山城の景観や歴史文化、謙信公の教えを誇りに、
その心や強さに出会う
春日山に抱かれた「謙信公の春日山城」の暮らし

- ・誇りある春日山城の歴史文化を次世代に継承する
- ・春日山の豊かな自然や景観に抱かれて、謙信公の義の精神や強さに触れながら生きる、豊かな暮らしを目指す

地域の観光と生業の姿
(新しい観光の創出:訪れてよし)

春日山が目指す「謙信公の春日山城」の
歴史文化、暮らし、精神を感じて滞在・消費する
高付加価値な滞在交流型観光

- ・観光客が「謙信公の春日山」に価値を感じ、生業や滞在時間の増加につながる観光サービスや体験プログラムの検討
- ・1日からの住民として「謙信公の城下町」を体験できる春日山城の整備を目指す
- ・実施体制の確立

実現のためのステップ

- ① 地域のDNAと観光地域づくりコンセプトの市民共有・理解
- ② 目指すべき「謙信公の春日山城」実現に向けた具体的な施策・整備計画の検討
- ③ 計画を実現する推進体制・スキームの構築

春日山城跡の将来イメージ

- 公園的な管理を行うことで、山全体が手入れされた整然さを持ち、「城」の風格を創出していく。

山中城跡公園(静岡県三島市)



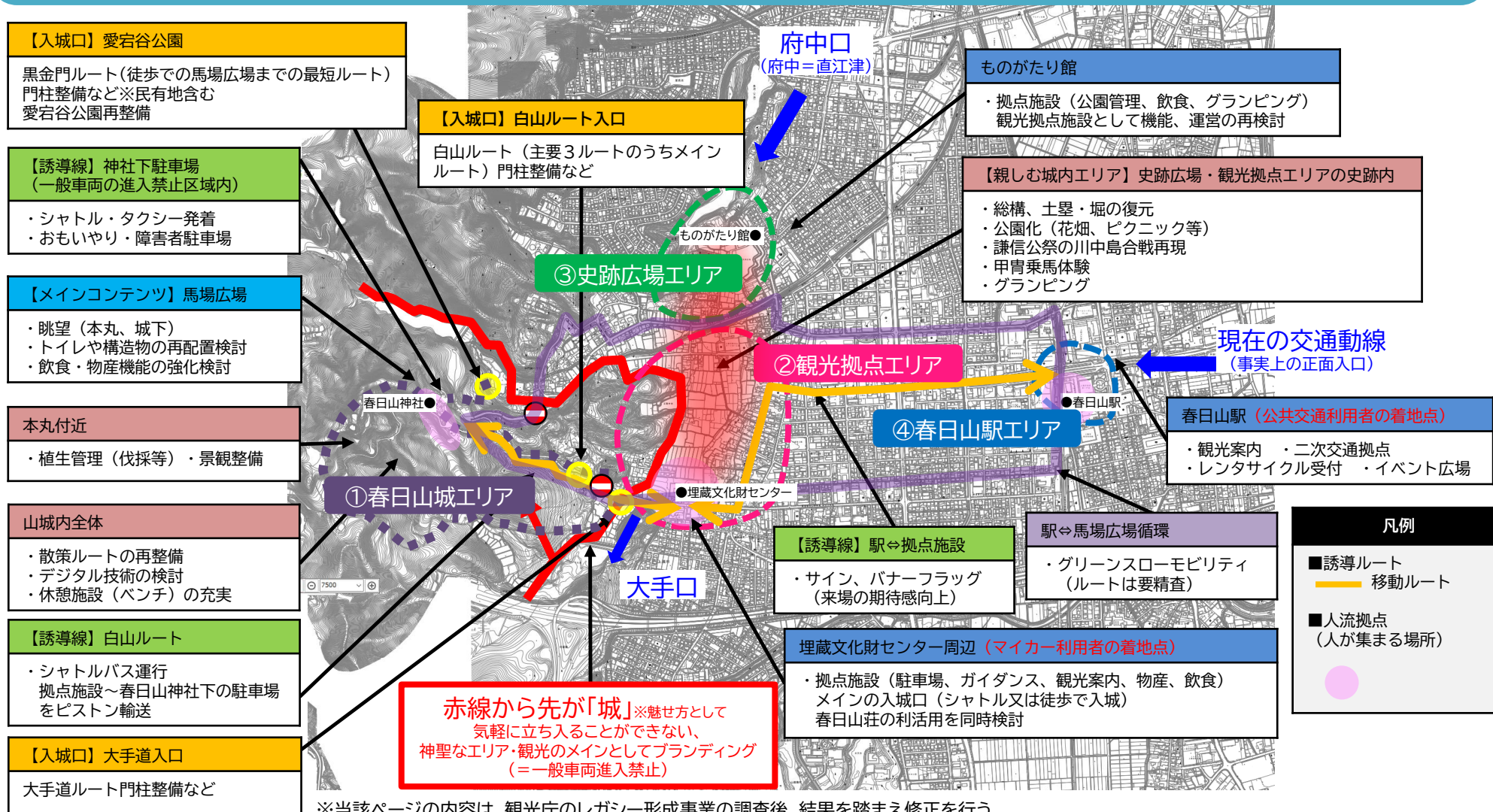
七尾城跡(石川県七尾市)



※春日山城は石垣無し

春日山地域：施策展開図案

○ 周年記念を迎えることによる交通渋滞、駐車場不足を懸念する声があり、また“戦うための山城”として立入困難であったという歴史的なストーリーとも合致することから、**春日山城への一般車両(交通弱者を除く)を進入禁止とし、パークアンドライドを始めとする二次交通の整備により地域内の回遊を図る。**



※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、結果を踏まえ修正を行う。

※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

エリア別施策展開案

①春日山城エリア



- **植林された杉を伐採**し、大正時代の山城の姿に戻す。
- **散策道や木道の再整備に加え、古道を整備**し、山全体に手入れされた整然さと「城」の風格を創出していく。
- エリア全体に統一した案内サインを整備するとともに、**ベンチ等を整備**する。
- **馬場広場**を修景整備するとともに、飲食・物産機能の強化を図る。
- 本丸～馬場広場～神社下駐車場の**トイレ配置を再検討し、改修**を行う。また、**駐車場の在り方を検討し、再整備**を行う。
- 白山、大手道、黒金門の3ルート**の入口を整備**する。



②観光拠点エリア



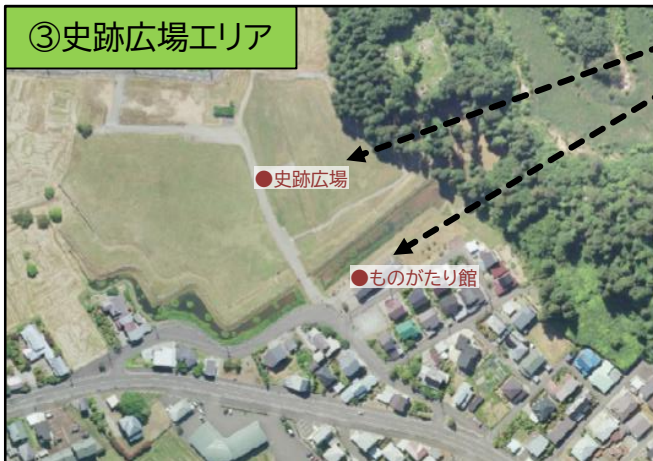
- **総構の堀と土塁を復元**し、植栽を行う。
- **埋蔵文化財センター周辺敷地**において、休憩、飲食、物産、学習、貸室機能を備えた観光拠点施設を整備する。**シャトルバスを始め二次交通の発着場・主要経由地**と位置付け、春日山城エリア回遊の拠点とする。
- 施設整備や運営は民間ノウハウを活用し、サウンディング型市場調査等により活用候補者選定後、施設整備を行う。
- **春日山荘を除却**し、観光拠点施設と一体的な施設を整備する。



※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、結果を踏まえ修正を行う。
 ※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

エリア別施策展開案

③史跡広場エリア



- 謙信公祭において川中島合戦の再現を行っている **史跡広場の利活用方法を検討**する。
- 埋蔵文化財センター周辺に新たに観光拠点施設を整備することから、現在、春日山城のガイダンス施設と位置付けている **「ものがたり館」について、観光拠点施設(公園管理、飲食、グランピング)としての機能、運営を検討**する。



④春日山駅エリア



- **上越文化会館の広場を改修し、車両の乗り入れが可能な集客イベント広場の整備**を行う(繁忙期のパークアンドライド用の駐車スペースや災害時の避難場所としても活用)。
- **春日謙信交流館に観光案内機能**を新たに整備するとともに、電車利用客及びパークアンドライド客の移動手段とするため、**二次交通の実証実験**を行うとともに、結果を踏まえ二次交通を整備する。
- 春日山城来訪客の玄関口として、春日山駅に**春日山城や謙信公の雰囲気を感じることができる設え**を整える。

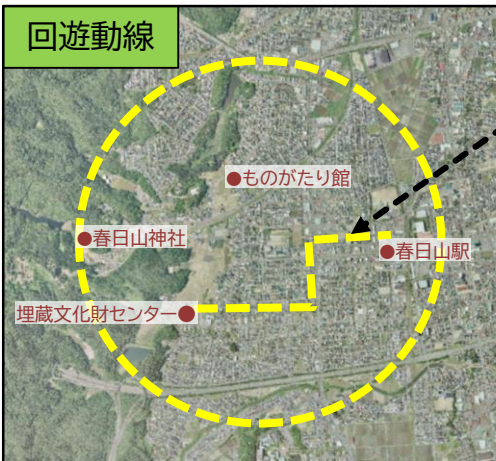


※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、結果を踏まえ修正を行う。

※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

エリア別施策展開案

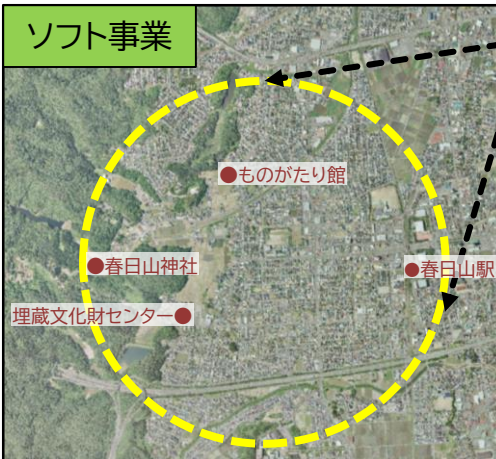
回遊動線



- エリア全体の回遊観光に必要な整備を行うため、**回遊観光戦略(案内所、二次交通、駐車場の最適化、全体サイン計画)**を策定する。
- 二次交通**の検討を行うため、シャトルバス、グリーンスローモビリティ及びレンタルサイクルの実証実験を行う。
- 駅からの誘導や歓迎ムードづくりのため、謙信公大通り沿いにサイン及びバナーフラッグを整備する。



ソフト事業



- 集客が見込めるコンテンツ、拠点施設機能等の市場調査を踏まえた観光コンテンツ基本計画を策定する。
- 謙信公ブランディング戦略を策定する。(マーケティング、プロモーション、シンボルマーク)
- 環境保全活動・研修活動の収益化に向けた仕組みづくりを行う。
- 地域の子どもたちの郷土への誇りと愛着の育成を行う。



【環境保全活動・研修活動】

- (既存) ・春日山講座(年3回様々なルートを歩く散策会)
 ・地元小・中学校との連携(小学校の総合学習、生徒会活動等)
 ・土の一袋運動の実施(授業、講座、一般来訪者、企業 ※ボランティアセンターに登録)
- (新規拡充)
 ・土運びトレイルラン、バケツリレー
 ・ごみ拾いイベント

※当該ページの内容は、観光庁のレガシー形成事業の調査後、結果を踏まえ修正を行う。

※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

3 直江津地域

<直江津地域：観光地域づくりコンセプト>

歴史と人情の「日本海うみまち」

- 歴史と新しさが交差する、日本海を代表する人情味あふれる豊かな「うみまち」の暮らしと生業(なりわい)づくり -

目指すまちと暮らしの姿
(まち・暮らしづくり：住んでよし)

府中と港町の歴史文化と美しい日本海を誇りに、
新しい文化を取り入れながら、歴史と新しさが交差する
人情味あふれる豊かな「日本海うみまち」の暮らし

- ・誇りある直江津のまちや歴史文化を次世代に継承
- ・歴史文化が薫り日本海の自然と共にある人情あふれる豊かな暮らし
- ・活気ある充実した商店街と都市機能
- ・古いものを大切にしながら新たな文化も取り入れる柔軟性

地域の観光と生業の姿
(新しい観光の創出：訪れてよし)

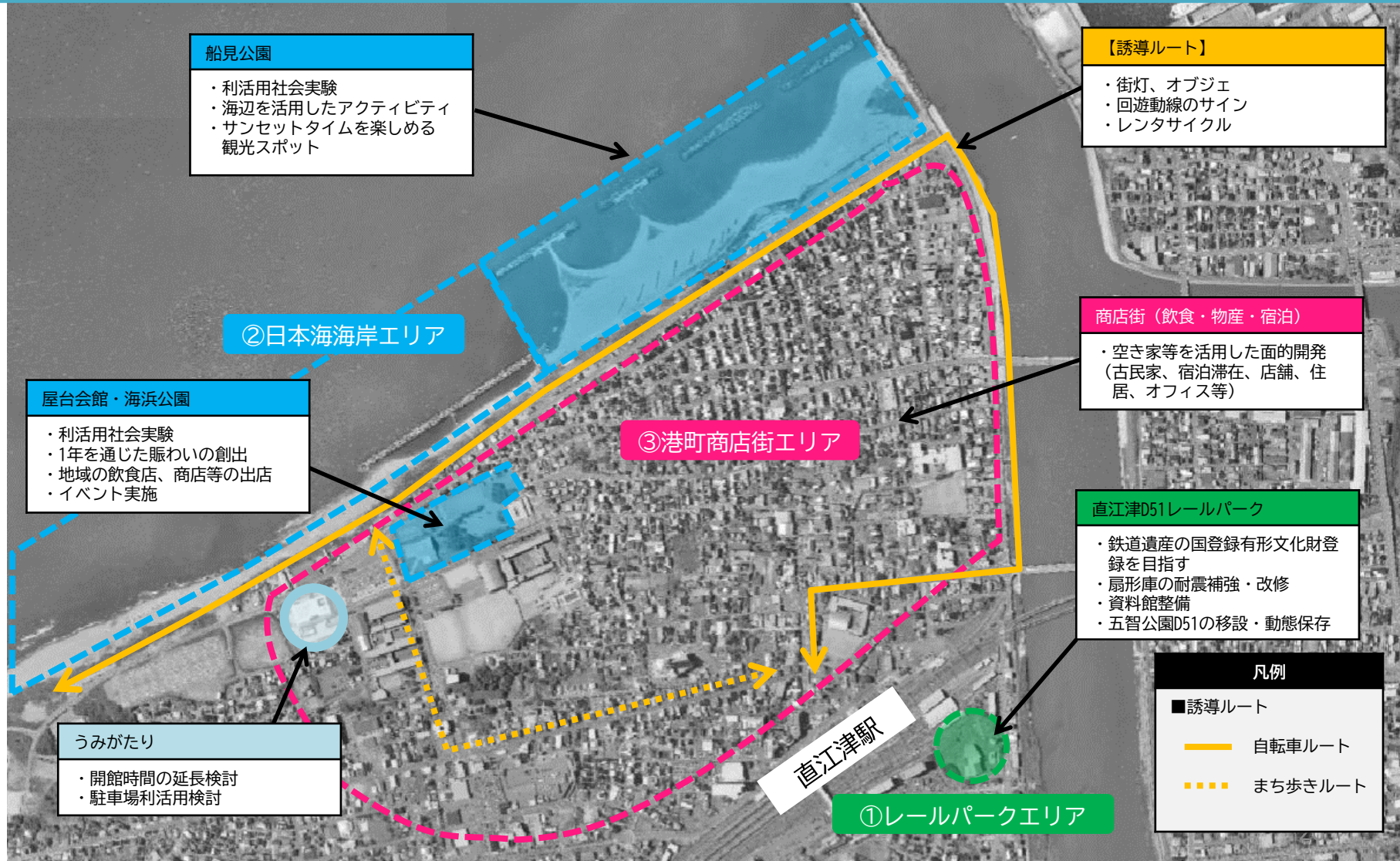
直江津が目指す「日本海うみまち」の
歴史文化、暮らし、人情を感じて滞在・消費する
高付加価値な滞在交流型観光

- ・観光客が「日本海うみまち」に価値を感じ、生業や滞在時間の増加につながる観光サービスや体験プログラムの検討
- ・1日からの住民として「日本海うみまち」の暮らしを体験できる歴史資源や空き家・空き地等を活用した面的なエリア・施設開発
- ・実施体制の確立

実現のためのステップ

- ① 地域のDNAと観光地域づくりコンセプトの市民共有・理解
- ② 目指すべき「日本海うみまち」実現に向けた具体的な施策・整備計画の検討
- ③ 計画を実現する推進体制・スキームの構築

○ 観光地域づくりコンセプトである”歴史と人情の「日本海うみまち」”の実現に向け、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。



※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

直江津地域：エリア別施策展開案

① レールパークエリア



- 市内全域の各種鉄道遺産を「**上越市鉄道遺産群**」として保存し、一時代を支えた鉄道の歴史や文化を後世に伝えていく。
- その取組の一環として、各地の主要な遺産の**国登録有形文化財への登録を目指すほか**、新潟県鉄道発祥の地である「**直江津D51レールパーク**」を一部鉄道遺産の集約施設(鉄道博物館)として位置付け、**整備・保全・継承**していく。
- **五智公園D51-75の移設、動態保存**を行う。



② 日本海海岸エリア



- うみがたりへの来場者をターゲットに、「**屋台会館・海浜公園**」を**一体的に活用**し、年間を通じた販わい創出の**社会実験**を行う。
- 「**船見公園**」を**活用**し、海辺を活用したアクティビティ、サンセットタイムのゆったりとした時間を楽しめる観光スポットへの**社会実験**を行う。
- 実験を基に必要な**施設改修、備品配置等を行い**、地域の飲食店や商店が日常的に出店できる仕組みを構築し、本格運用を目指す。



直江津地域：エリア別施策展開案

回遊動線



- **二次交通**の検討を行うため、海沿いにおいて、レンタサイクルの実証実験を行う。
- **誘導サインの整備**や、歓迎ムードづくりのための街灯、オブジェ等整備の検討を行う。



レンタサイクル実証実験



誘導サイン整備

4 高田地域

<高田地域：観光地域づくりコンセプト>

雁木でつながる「花咲く共助の城下町」

- 雁木の共助の精神が時代や縁をつなげる「新しい生業(なりわい)と暮らしが花咲く城下町」づくり -

目指すまちと暮らしの姿
(まち・暮らしづくり:住んでよし)

城下町や雁木の共助の精神を誇りに、
時代や縁をつなげ、新しい生業と暮らしが花咲く
雁木でつながる「花咲く共助の城下町」の暮らし

- ・誇りある高田の城下町の歴史文化を次世代に継承する
- ・雁木の街並みや共助の精神が継承され、城下町の歴史文化が薫る豊かな暮らしを目指す
- ・古いものを大切にしながらも新たな生業や居住を花咲かせるイノベーターな取組を推進する

地域の観光と生業の姿
(新しい観光の創出:訪れてよし)

高田が目指す「花咲く共助の城下町」の
歴史文化、暮らし、精神を感じて滞在・消費する
高付加価値な滞在交流型観光

- ・観光客が「花咲く共助の城下町」に価値を感じ、生業や滞在時間の増加につながる観光サービスや体験プログラムの検討
- ・1日からの住民として「花咲く共助の城下町」の暮らしを体験できる歴史資源や空き家・空き地等を活用した面的なエリア・施設開発
- ・実施体制の確立

実現のためのステップ

- ① 地域のDNAと観光地域づくりコンセプトの市民共有・理解
- ② 目指すべき「花咲く共助の城下町」実現に向けた具体的な施策・整備計画の検討
- ③ 計画を実現する推進体制・スキームの構築

高田地域：施策展開図案

○ 観光地域づくりコンセプトである”雁木でつながる「花咲く共助の城下町」”の実現に向けて、地域資源・エリア特性に沿って事業を展開する。

大町通り

- 雁木町家の空き家を活用した店舗・住居・オフィス・宿泊施設等の物件開発(民間)

高田小町・旧今井染物屋

- 拠点施設としての役割、在り方検討

観光案内所

- 観光案内機能、移転の検討
- 観光ガイドの配置

浄興寺大門通り

- 道路、電柱、街灯、橋等の門前通りの雰囲気を感じる修景

浄興寺大門通り

- 菓子製造販売所の開業や集客施設の新設を検討中(民間)

寺院群

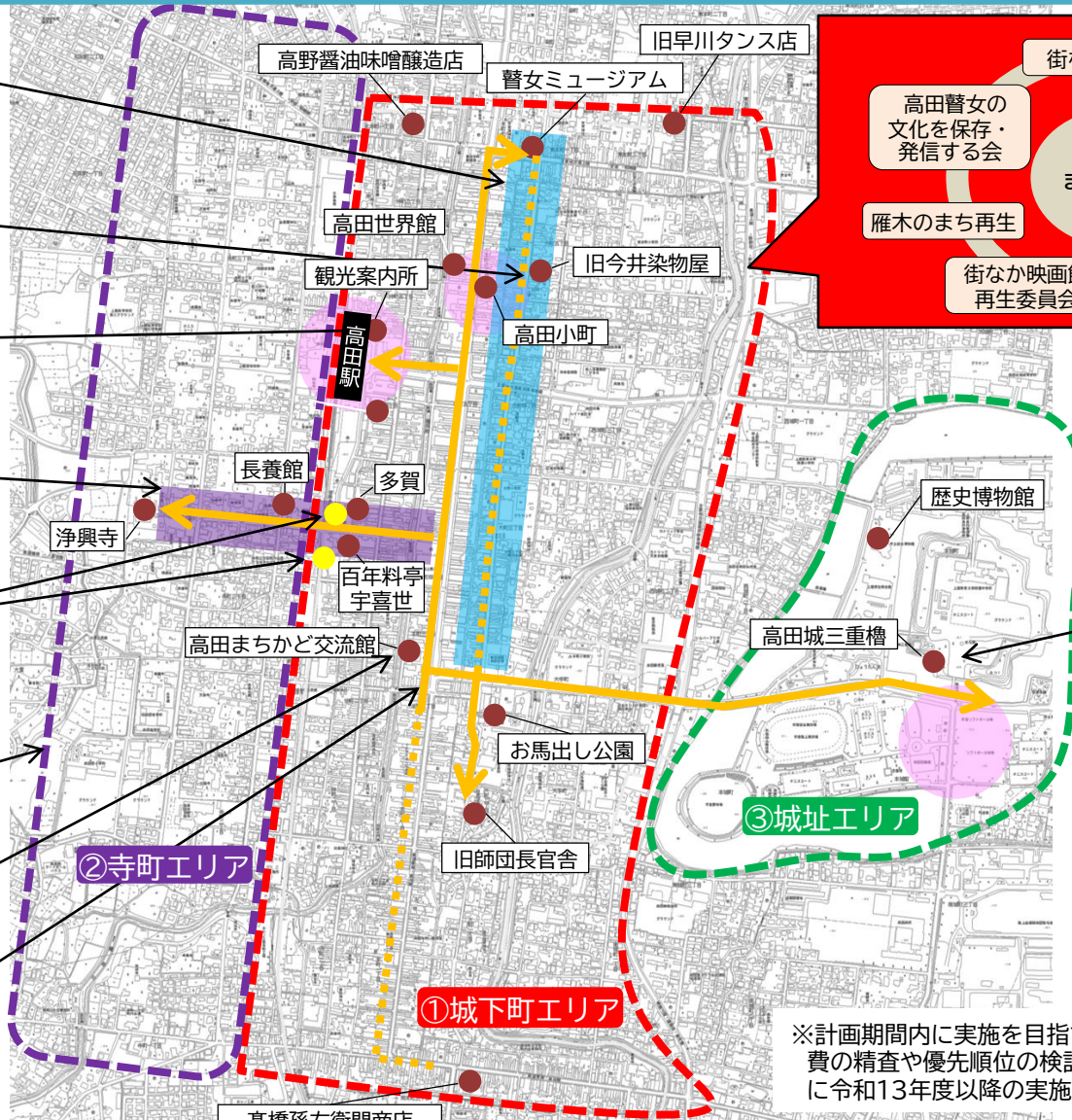
- 寺院を拠点とした観光モデルコースの選定
- 観光と住みやすさの共存検討

高田本町百年商店街

- 高田まちかど交流館賑わい創出実証実験

【誘導ルート】

- 回遊動線のサイン
- レンタサイクル、グリーンスローモビリティ



街なみFOCUS

- 高田誓女の文化を保存・発信する会
- 雁木のまち再生
- 街なか映画館再生委員会
- お馬だしPJT
- 雁木ねっとわーく
- 高田本町百年商店街実行委員会
- あわゆき組

主なまちづくり団体

団体名は例示

- 一体的なエリアマネジメントが可能な専門的なまちづくり会社
- 持続可能で稼げる組織へ

高田城址公園

- 柵形門復元の整備可能性調査研究

凡例

- 誘導ルート
 - まち歩きルート (yellow dashed)
 - 準まち歩きルート (orange dashed)
- 人流拠点 (人が集まる場所) (pink circle)

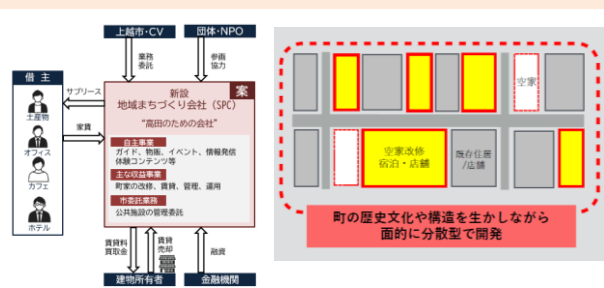
※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

高田地域：エリア別施策展開案

①城下町エリア



- 一体的なエリアマネジメントを行い、稼げる**持続可能なまちづくり組織**の検討(民間)
- **雁木町家の空き家を活用**した店舗・住居・オフィス・宿泊施設等の物件開発(民間)



- **観光案内所(高田駅前)**、**拠点施設(高田小町・旧今井染物屋)**の役割、**在り方等**の再検討
- 高田まちかど交流館で市内外からの日常的な**賑わいを創出**するための実証実験を行う。



②寺町エリア



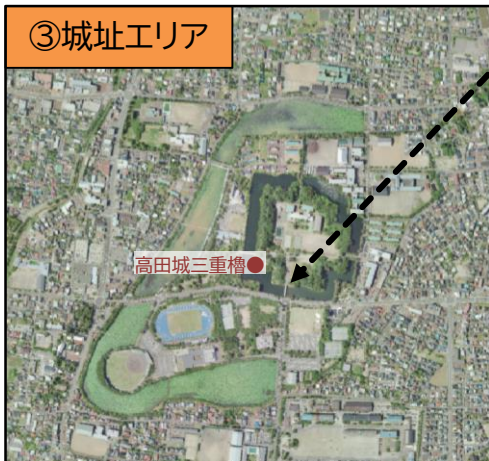
- 寺院を拠点とした**観光モデルコース**を選定し、発信するとともに、デジタルコンテンツの活用や「花の寺」、「寺でカフェ」など**新たな魅力の創造**に向けた検討を行う。また、住民、寺院、行政が連携し、先進地の事例を研究しながら、**観光と住みやすさの共存を検討**する。
- **浄興寺大門通り**において、道路、電柱、街灯、橋等の門前通りの雰囲気を感じる**景観の整備**を行う。



※計画期間内に実施を目指す取組を記載。ただし、今後の事業費の精査や優先順位の検討により期間内に実施できない場合に令和13年度以降の実施を目指すものも含む。

高田地域：エリア別施策展開案

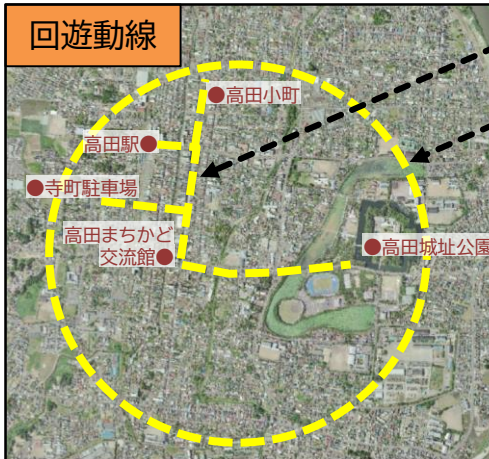
③城址エリア



- 令和2年に文化庁が「史跡等における歴史的建造物の復元等に関する基準」を決定し、史実に忠実な従来の「復元」とは別に、学術的な調査を尽くしても史資料が十分に揃わない場合に、それらを多角的に検証して再現することで、史跡等全体の保存及び活用を推進する行為を「復元的整備」として定義し、再建可能としたことから、**枡形門の復元的整備の可能性について調査研究を行う。**



回遊動線



- 歩行者の誘導ルートของ考え方や優先的に誘導する施設等を定めた「高田街なか回遊サインマニュアル(平成31年3月策定)」を改訂し、**誘導ルートの考え方等を再整理**する。
- 二次交通**は、高田駅⇨高田城址公園間の路線バスが多くあるため公共交通の見える化を行うとともに、グリーンスローモビリティ及びレンタルサイクルの実証実験を行う。

